

# 件名構成の一試案

— 船舶の種類名を中心として —

## A Trial Method of Constructing Subject Index on Names Indicating Kinds of Ships

浜田敏郎  
*Toshio Hamada*

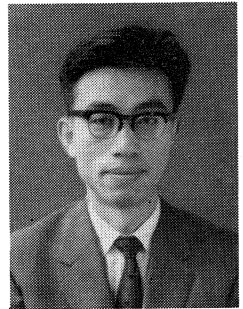
### *Résumé*

As systematic approach of one kind or another is usually adopted in the field of science and engineering, it is believed of importance to establish some kind of similar approach to constructing a subject indexing system.

As a trial of preparing an indexing tool the writer chose things related to ships and vessels putting emphasis on the analysis of terms indicating the kinds of ships. At the same time, he tried to find a concrete form of preparing an index by which component elements of names of various kinds of ships could be retrieved effectively.

For the above study, he utilized a few indexes and journals from which he obtained the basic terms and more specific terms as the objects of analysis.

In the first chapter, he made analysis of those terms and discussed the stability of certain characteristic compound words. In the second chapter, he tried to tackle the problem of formulating relation between the subject terms and the kinds of ships.



序

- I. 船舶種類名の分析
  - II. 件名と種類名との関係
- 結 び

序

専門図書館をはじめとして、多くの図書館では、はたして利用者の満足できるような目録や索引を準備しているであろうか。形式的には整っているかも知れないが、特に主題からのアプローチに対処して、満足のできる件名や分類が与えられているであろうか。

ある図書館では自館の利用者に合う件名や分類の作成を試みたり、既存の件名標目表や分類表に手を加え、より適合するように試みたりしている。一方、ただ機械的

に利用して、利用者の利用方法を考えていないところもあろう。

今後われわれは、件名や分類の適用とか作成の問題により一層の深い関心を払わなくてはならないであろう。これに対し、一つの法則的なものを設定してみることができないであろうか。というのは、工学には材料学とか材料力学というものがあり、この知識をもとにして特定の機械が設計される。同じように、件名標目表や分類表という機能を持つツールを設計するには、言語学とか言語力学というものが必要である。

このようなツールを組立てて行く一つの試みとして、船舶関係に焦点をあて、そのなかで船舶の種類名を分析し、なんらかの手がかりを得ようと試みた。

前提として、本来ならば特定の利用者、資料群、および検索方式として目録、パンチカード、コーディネイ

浜田敏郎：慶応義塾大学文学部図書館学科。Toshio Hamada, Assistant Professor, Japan Library School.

## 件名構成の一試案

ト・インデックスの方式等々を設定すべきであるが、今回は種類名を分析した結果を、上記の諸方式との関連において考えたいので、予め特定の前提は設けないことにする。

方法としては、船舶の種類名を文部省編集の「学術用語集—船舶工学編」よりとり出し、各種類名を、1枚1枚パンチカードに記入し、それを構成要素で検索できるように設定した。すなわち、語尾が「艦」、「漁船」、「運搬船」等で終るものを、それぞれ独立の種類名と見てパンチし、それを用途別、構造別、動力別等のセクションを設けて索引可能な形にパンチした。

しかし、その実施に当っては、予め種類名を集めて、それを示す合成語にどのような傾向が現れているかを考察し、その上でコードを決定したのである。

### I. 船舶種類名の分析

大部分の種類名の最後は「船」である。(表1. 船舶種類名の使用語頻度を参照)

「～船」は235種の中で182種(77%)を占めている。次に「～艦」は33種(14%)であり、「～艇」は12種(5%)である。以下は「～ボート」、「～カッター」等で8種(4%)に過ぎない。

ただし、「～船」の中には、わずかではあるが「～ブネ」と呼ぶものが4種あった。それらは「灰船」、「川船」、「引船」、「押船」である。

また「～船」とか「～艇」で終っても、船舶の種類名でないものもあった。「飛行船」、「飛行艇」、「係船」、「造船」、「難船」の5種である。

英語と比較するために～ship, ～vessel, ～boat等を調べると、～ship 56種(26%), ～vessel 38種(18%), ～boat 45種(22%)等であり、その他が49種(23%)もあった。

このことは、非専門家にとっては日本語の方が種類を見つけ出すには便利であると言えそうである。それは、語尾に「船」のついている語を探せば、大体の船の種類を集めることができるからである。分類記号として考えれば、助記性が強いといってもよいであろう。これに反し、英語は一語で機能を含む語を用いたり、単純な形式を選んだりする。例えば Coal carrying vessel とせず、Collier としたり、Dredging vessel とせず、Dredger としている。(例I参照)

次に「船」の前に1字または2字を加えて○船、○○船という形をとるものについて、どれが基本語となるこ

とが多いかを調べてみると、「～漁船」と「～運搬船」が一番多くあった。そこで、船、艦、艇等と組み合わさった種類名の中で、頻度の高いものは船、艦、艇等について安定した種類名と言いうる。ただし、甲板船、軸船、頭船等を独立の種類名と見るのは不自然であり、従来はこれらの前に普通、重、軽、二、三、四、多、等が結合しているのがあたりまえであるので、例外的に扱う。

(例II参照)

そこで件名の構成としては、このように安定した種類名をどう扱うかについての考慮を払う必要がある。

次に船舶の種類名について、用途別、動力関係別、構造別、材料別、性能別、航行場所別、航行方法別等の分析を行って見た。用途別が圧倒的に多く、64%で、他は動力関係、材料別等が多く33%を占め、残りはどこにも入らないようなもので、3%を占める。(例III参照)

種類名を示すコトバの中にはいくつかの規定語の組み合わせが見られる。例えば「原子力潜水艦」のように、動力と用途が組合わさっている結合語を調べると、用途名が後について、動力、構造等が前につく傾向が強い。用途名のついた種類名は、一般に安定していると言える。

以上の分析から、船舶関係においては少くとも種類名を示す語の最後の部分、すなわち、船、艦、艇などが分類という類の助記性を有し、その前に1字とか2字が組合わされて成語となっている種類名が、高い頻度で用いられ、従って件名として選ばれる可能性も高い。別の面から見れば、用途的要素を含む種類名が件名として用いられる可能性が高いと言えよう。

これは、用途を示すことはすべてに影響することであると考えられるからである。例えば、運搬船といえば、その用途にありように設計され、各種の部分や性能が決定されるからである。この点から考えると、用途別の種類名は包括的な概念を有するとも言える。

### II. 件名と種類名との関係

用途を表わす種類名が一番多く、しかも他の要素と組合わさっても、普通後にくる形をとり、概念の包括度合に関しては、「船」「用途」「その他の要素」の順が考えられる。

用途別に注目して、各種の分類表、件名標目表にあたって見ると、船舶以外の領域でもモノを示す合成語は殆んど用途の種類を示している。各種の交通機関、建物等に、この例が多く見られる。但し、観点を一つの所にあ

てた場合は、用途名以外の要素が当然考えられる。すなわち、船舶機関に注目した場合は「タービン船」、「ディーゼル船」等の区分がある。しかし、設計という立場で見ると、用途的な種類が他の要素に決定的要因として働くことが多い。

次に、件名としてどのように構成するかということに注目してみよう。最初に個々の語に関するよりも、全体の骨組について考察する必要がある。日本語の特徴を生かして、すべて、字の配列を逆から検索させるようにしたらどうなるであろう。例を「底引網漁船」として見よう。

この方法でやると「船」-「漁」-「網」-「底引」となる。これを概念的に整理し、記号をつければ分類になるであろう。件名としては自然語を重んじる必要があるし、用途の種類名が一番よいわけであるから、「船」-「漁業」-「底引網」としたらどうであろうか。ここで条件を考える必要が起る。この点に関しては、1) 特定分野の種類名の数による。船舶の領域では、よく用いられる種類名が235種発見された。2) 目録や索引の利用者達が、特定分野全般に関係しているのか、非常に限定された部門だけに限られるのか。3) 資料・情報の質・量の問題、等があげられる。1) において種類名が少なければ「漁船」-「底引網」でよいし、現実問題となる「漁船」の種類名も非常に少なければ「底引網漁船」で充分であろう。また2) において、利用者達が漁船のみに、あるいは底引網漁船のみに注目していれば、「漁船」-「底引網」かあるいは「底引網漁船」でよい。

船の分野全般にわたって各種の利用者がいるような場合は、「船」-「漁業」-「底引網」が適当である。これは、利用者個人の船舶種類名についての呼び方の違いや、知識の問題であって、前者は自己の呼び方で検索して「を見よ」参照で案内されて到達することが考えられるし、後者は特定の種類名を思い出さなくても「船」のところで検索しているうちに思い出すこともでき、あるときは漫然と検索しても見つけることがあるからである。さもないと「を見よ」参照で探し廻ることになってしまう。

では「機雷布設潜水艦」は「艦」-「潜水」-「機雷布設」とするかという問題が出るが、ここで個々の語の調整を必要とする。すでにあげたように、「船」、「艦」、「艇」、「ポート」等を包括し、かつ概念を明確に表現する語を件名として選ぶ必要がある。その点では、一般に「船舶」が適当と思われる。すなわち、「船」、「艦」、「艇」、「ポート」等を「船舶」という包括概念を有する件名でま

とめてその下に用途別種類名の件名を出し、各用途別種類名の件名の下に、必要に応じ、コトバでは一番前に出てくる、機関別、性能別、航行場所別などを表わす語をつけることである。

では、はじめから「ディーゼル船」、「帆船」、「原子力船」という形をとる語は、どう扱えばよいかという問題が出てくる。ここにまた、別の条件を考える必要が起る。それは、対象となる資料によることである。前述のように、用途別種類名が最も包括的であるので、資料によっては、特定用途の船のディーゼル機関についてとか、原子力エンジンについて取扱っていれば、その用途別の件名の区分として、これらの動力機関を細区分件名としてつければよいが、もしもディーゼル機関船のすべてについての内容であれば、これら種類名の件名は間に入れないで「船舶」のすぐ下に与えることにする。

以上の点について、直接数種の索引誌にある件名を比較して見ると、British Shipbuilding Research Association の Journal Index においては、「Ships」でまとめ、このもとに、「Cargo vessels」、「Cargo and Passenger vessels」等の用途別名が与えてあり、必要に応じ、その区分が使われる。これを見ると、「を見よ」参照が非常に少くなっている。(例 IV, V 参照)

国立国会図書館の「雑誌記事索引」には「船舶」の区分として「貨物船」、「漁船」等があり、軍艦、潜水艦は単独に扱われている。しかし、件名の数は前者に比して、非常に僅かである。(例 VI 参照)

以上の二つに対して *Engineering Index, Applied Science & Technology Index* においては、種類名は殆んど単独に扱われているので、分散しており、「Ships」の下の「See also」のところに、これら種類名の件名が記入されている。

利用頻度の高い語、包括的な概念を有する語を件名に使用しているあいだは、前述のように、直接的あるいは単独に件名を取り扱ってもよいが、詳細な件名を必要とするばするほど、このような段階的件名を必要とするようになろう。小さな公共図書館や学校図書館ではよいが、専門・大学図書館では前述のような問題がある。

## 結 び

以上で、一応分類的件名の問題を船舶の種類名から注目して、実際のデータをもとにして調べて見たが、今後は「船～」と船が前に来る語を分析して見たいと思っている。このように、種類名が多い場合は、これらを分析

件名構成の一試案

することにより、船舶関係の各種の部門も自然に出てくることが期待される。しかし「船舶」を中心として、これに関係する語をもっと取り出して行かなければ、実用性を持つ結論は出てこないであろう。

表 1

船舶種類名の使用語頻度  
日本語の場合

最後の語	種類の数	%
～ 船	182種	77%
～ 艦	33種	14%
～ 艇	12種	5%
その他	8種	4%
	計 235種	100%

英語の場合

最後の語	種類の数	%
～ ship	56種	26%
～ vessel	38種	18%
～ boat	45種	22%
～ carrier	16種	7%
～ cruiser	6種	2%
～ dredger	6種	2%
その他	49種	23%
	計 216種	100%

例 I

1. 日本語の最も単純な船舶の語

舟	ランチ
船	ハンケ
艇	タンカー
艦	カッター
ボート	

2. 英語の最も単純な船舶の語

Barge	ハンケ
Boat	ボート
Carrier	運搬船
Collier	石炭 [運搬] 船
Craft	舟艇, 船
Cruiser	巡洋艦
Cutter	カッター
Destroyer	駆逐艦

Dreadhought	ド級艦
Dredger	シュンセツ船
Drifter	流シ網漁船
Ferry	渡船
Freighter	貨物船
Lighter	ハンケ
Liner	定期船
Packet	"
Sampan	通イ船
Scout	テイ察艦
Steamer	汽船
Submarine	潜水艦
Tender	補給船
Tramper	不定期船
Troller	引ナワ漁船
Vessel	船
Victualler	給糧船
Whaler	捕鯨船
Wreck	難破船
Yacht	ヨット

例 II

2 字以上が結合して、船の種類を示す語で、比較的使用頻度の高いもの。

漁船 (Fishing boat, Fishing vessel) ……………	14種
～網漁船	6種
～ナワ漁船	4種
～採取漁船	2種
～漁船	2種
運搬船 (Carrier) ……………	15種
多種多様	
[甲板船] (Deck vessel) ……………	6種
部分覆甲板船	
軽甲板船	
重甲板船	
三層甲板船	
ウエル甲板船	
無甲板船	
母艦 (Depot ship) ……………	4種
航空母艦	
水上機母艦	
水雷母艦	
潜水母艦	

母船 (Mother ship).....4種	
サケマス母船	
マグロ母船	
カニ母船	
捕鯨母船	
帆船 (Sailing ship) .....4種	
縦帆船	
横帆船	
機帆船	
補助機関付帆船	
[軸船] (Screw ship).....4種	
二軸船	
三軸船	
四軸船	
多軸船	
巡洋艦 (Cruiser) .....4種	
重巡洋艦	
軽巡洋艦	
装甲巡洋艦	
仮装巡洋艦	
工船 (Floating factory ship, Factory ship) ...4種	
サケマス工船	
カニ工船	
カン詰工船	
鯨工船	
汽船 (Steamer, Steam ship).....3種	
船側外車汽船	
タービン汽船	
湖水汽船	
[頭船] .....3種	
軽頭船	
重頭船	
両頭船	

[ ] はこの語だけ単独に使用されていないものを示す。

例 III

船舶名に動力関係のものを含んでいるもの。

ロカイ船	Rowing boat	
帆船	Sailing ship	
~帆船	.....4種	
汽船	Steamer	
~汽船	.....3種	

汽艇	Steam launch	
石炭ダキ船	Coal burning vessel	
油ダキ船	Oil burning vessel	
原子力船	Atomic powered ship	
発動機艇	Motor launch	
内燃機船	Motor ship	
ディーゼル船	Diesel boat	
スクリュープロペラ船	Screw ship	
~軸船	.....4種	
空中プロペラ船	Aero-propeller vessel	
無動力船	Non-powered vessel	
~付~	.....3種	
(例: 発動機付救命艇)		
その他	.....1種	

例 IV

British shipbuilding Research Association  
Journal: Index to volume 17, 1962 からの引用。

Ships:

Banana carriers—See Ships: cargo vessels

Barges:

Braunkchle 3	(固有名)
Island Exporter	( " )
Island Importer	( " )

Log:

Forest Prince	(固有名)
Island Pine	( " )
Side-tipping	

Model and full-scale tests on

Pushed trains:

    Automatic coupling for  
    Model tests on

Boats:

.....

例 V

British Shipbuilding Research Association

Journal: Index to volume 17, 1962 の船種名の

件名群

Ships:

Barges  
Boats  
Buoy-tenders

件名構成の一試案

Cable-layers  
Cargo vessels  
Cargo and passenger vessels  
Dredgers  
Ferries  
Fishing vessels  
Great lake vessels  
√Hydrofoil craft  
√Ice-strengthened vessels  
Icebreakers  
√Inland-waterways vessels  
Lifeboats  
Lighters  
Merchant  
Naval vessels  
Passenger vessels  
Pilot vessels  
Planing craft  
√Quadruple-screw  
Refrigerated  
Research vessels  
Shallow-draught  
√Single-screw  
Tankers  
Tankers, large

Tug  
√Twin-screw  
Vehicle carriers  
√Yachts  
(√は用途別以外の分野の船種名)

例 VI

雑誌記事索引—自然科学編 1964年12月 15巻 12号  
からの引用。

軍艦  
潜水艦  
船舶\*

—貨物船  
—漁船  
—砕氷船  
—浚渫船  
—曳船  
—捕鯨船  
—油槽船

ホーバークラフト

船舶機関  
船舶工学  
船舶推進器  
船舶設備

(\* 船舶のところだけ詳細に記入した。)

付 録

船舶種類名 索引方式の一例

1	2	3	4	5	6
船舶	運搬				軍隊
	軍隊運送船				

1	2	3	4	5	6
船舶	救助		発動機		
	発動機付救助艇				

船舶

下記の各細区分を示す場所に従って検索して下さい。細区分の配列は、1から6の順序に従っています。

- 1. 船舶
- 2. 用途
- 3. 構造
- 4. 動力
- 5. 材料
- 6. 運搬の対象  
または  
道具